

今を知り これからに向けて 「行動」する



いわきの土に触れ苗を植える



情報労連
NTT労働組合 ドコモ本部



いわきの自然を感じながら田植えを体験



いわき市の現状を聞く

ワンダーファーム

ワンダーファームは「五感を耕す。農と食の体験ファーム」をコンセプトに、レストラン、直売所、加工工場、多目的イベント広場などを備えた体験型施設。

「東日本大震災」後、いわき市周辺地域では離農者が増えたことを背景に、地域農業を守るため、農業だけでなく、観光や飲食、農産加工などへの事業拡大を強く意識し、農業体験施設「ワンダーファーム」を2016年2月にオープンした。いわき市、福島県の復興と日本の農業にも寄与すると期待されている。

HP: <http://www.wonder-farm.co.jp/>

ファーム白石

福島県いわき市の白石長利氏が営む農場。

「福島の旬の野菜を味わうバスツアー」などで、積極的に県外からのツアー参加者をいわきの農場に招き入れるなど、福島産の農作物の風評被害に対し「自分ができるところ」を一步一步進めている。

復興の懸け橋となり取り組む人にスポットを当てたドコモ東北復興新生支援室HPのリポートの中でもファーム白石を紹介している。

未来へ進むとうほくりポート<http://rainbow.nttdocomo.co.jp/enterprise/detail/116/>

現地を「見て」「聞き」「知る」

組合員一六人は、いわき市のワンダーファームを訪れ、株式会社ワンダーファーム・元木寛代表取締役といわき市で農業を営むファ

ーム白石の白石長利氏から、ワンダーファーム設立の背景と、震災後のいわきの農家の人たちの思いや、これまでの取り組みを聞いた(次号掲載予定)。

続いて訪れた、いわき市で水産業を営んでいる株式会社おのざきでは、代表取締役社長の小野崎幸雄氏から、漁業・水産業の現状と苦悩や、白石氏など農業を営む人たちと連携し事業を行なっていることを聞き、困難な状況に協力して立ち向かういわきの人のつながりの強さを感じた。

皆さんに共通していたのは、パワフルで前向きな姿勢と「いわきの仲間」「つながり」を大切にすること。その姿勢と言葉が、強く印象に残った。

ファームでは採れたての野菜が食べられる施設もあり、トマトをはじめとする福島産の農作物のおいしさを体験することができた。

ファーム内では、たくさんの人たちが食事や買い物を楽しみ、芝生の広場では駆け回る子供たちの姿も見られ、この施設の中では、風評に苦しむ被災地という姿は感じられなかった。

「いわきから農業の魅力と元気を発信する」という、元木氏や白石氏がめざすワンダーファームの目的・役割を参加者全員が実感することができた。

「自分たちができることを考える」

参加者は、「自分たちで復興が進んでいる部分を実感として感じられた。また、ドコモの東北復興新生支援室と一緒に活動したことも大きな刺激になった。同じ会社で働く仲間のために、個人としても業務としても何かできないかと考える良い機会になった。百聞は一見にしか

強い信念伝わる 現地で見た復興



R & D 分会
田村 隆幸さん

いわき市の生産者たちのバイタリティー、ポジティブさ、あふれるばかりの笑顔に参加前の先入観は打ち砕か

れ、参加した私が元気をもらった。講話や対話の中で震災時に身の回りで起きたことを聞くと、心の中には震災で受けた傷や、今後に対する不安はまだまだあるのだと感じた。だが、それを外部には見せず、今できることは何でもやるという強い信念が伝わってきた。現地の人の

「考える」「行動」から「考動」にしているという「前向きな発言が多く出されたほか、「再びいわきを訪れたい」「継続し続けることが重要」など活動の継続に向けた意見も聞かれた。

「考える」「行動」に移していく。ドコモ本部は、八月に開かれる第二〇回ドコモ本部定期大会を福島県で行なうなど、「東日本大震災」の風化・風評に抗する取り組み」を今後も継続していく。

「考える」「行動」から「考動」にしているという「前向きな発言が多く出されたほか、「再びいわきを訪れたい」「継続し続けることが重要」など活動の継続に向けた意見も聞かれた。

いわきの農業を 実際に「体験」

白石氏の指導のもとワンダーファーム内の農場で農作業を一日体験した。

「自分たちができることを考える」

「自分たちができることを考える」

「自分たちができることを考える」

「自分たちができることを考える」

「自分たちができることを考える」

自分たちができる ことを「考える」

「自分たちができることを考える」

「自分たちができることを考える」

「自分たちができることを考える」



グループディスカッションの様子